

あなたの名前Ⅲ 「異邦人の名 男らしさ」

マルコ 3:13~19

■ 私たちには融合の役割がある

スコットランドの国旗は十字架が「X」になっています。これはアンデレが死刑になる時、イエス様の十字架と同じではおこがましいので、「X」の十字架を取って選んだ。と言われていました。今の世の中には、あたかも、もっともらしい一部の意見が世の中に多大な影響を与えてしまうことも多くなっています。「神様の愛」(福音)を失った思想は、どんなに素晴らしく思えてもズレてしまいます。それらの差異をつなげ、神の愛と融合させていく役割が私達には委ねられています。

■ 回復の名前を与えられ弟子たち

《シモン》

シモン、彼の名は「聞く」。創世記 3:8 の御言葉と同じ原語が使われています。神の御言葉をシャー。派生シャーマ「聞」。創世記の時代、アダムとイヴは、蛇にそそのかされて食べてはならないと言われていた木の実を食べてしまいました。それによって、本来は神に聞く者だったにもかかわらず、自分で判断するようになりました。神から御顔を背けたのでした。それが私達の中にある原罪です。原罪は的を外すこと。私達はすぐに的を外してしまう存在なのです。だから私達が判断するとき何を基準に判断するかが大事です。善悪を知る罪は自分で善悪を判断してしまうこと=自分を神にしてしまうことです。神様に聞いて判断することで自分と神様の考え方のギャップを感じることが必要です。イエス様は、十字架に向かわれる前に「この杯をとってください」と祈ったけれども、「この心が神の御心でなければ変えてください」と祈りました。私達も神様の御言葉を選ぶのか、選ばないのか、選べば祝福されるし、選ばなければ腐っていきます

《アンデレ》ペテロの兄弟

マルコ 3:18 次に、アンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルパヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党员シモン、という名をつけられたアンデレはイエスに兄のペテロのところに呼ばれたのだが、12弟子には選ばれてはいません。

彼の名はギリシヤ語のみ表記でした。男らしいという意味があり、ヘブル語の名前があったと思われませんが、それは表記されていません。彼はヘブル人だったのにも関わらず、ギリシヤ語の名のみを残され、アンデレはギリシヤ人をイエスの所に連れてくる、また仲介するような役割に立っていました。ヘブル文化で生きた彼らがギリシヤ文化の中で男らしく生きると言われたのです。また、アンデレが兄ペテロを連れてきたのにも関わらず、兄の方が弟子と言われ、自分は選ばれていない…。アンデレはそのような状況の中で葛藤と戦っていたのではないのでしょうか。

■ 役割に徹したアンデレとピリポ

ピリポがギリシヤ人にイエスにお目にかかりたいと頼まれた時、ピリポはアンデレに伝えました。そして、2人でイエス様のもとにギリシヤ人を連れていきました。ピリポとアンデレは、本当なら救われないはずのギリシヤ人がイエスから福音を聞くことをセッティングしました。ピリポ、アンデレはそのような役割でした。それを彼らは良く理解していました。私たちはこの2人のように自分の役割を理解しているのでしょうか？

《その時が来ました。》

アンデレとピリポが自分たちの役割に徹し、異邦人がイエス様から福音を聞くことが出来るセッティングを果たしたからこそ、イエス様は「その時が来ました。」と異邦人へ大きな福音を伝え十字架に向かうことができたのです。

■ 男らしく生きる(自分らしく生きる)

一粒の種が撒かれて自分に死ぬならば豊かな実を結びます。しかし、自分に死ぬのは、とても難しいのです。アンデレとピリポが選ばれていく理由はこの様なところにあるのではないのでしょうか。ピリポはギリシヤ人をイエス様のところに連れていく、そして救われるはずではなかった人達に対してイエス様が大きな福音を伝える場面をアンデレとピリポはセッティングしました。アンデレは中継ぎ、ユダはその場面を作る人。このようにみんなに役割があります。大きな失敗、そして心の中にある痛み、神様は用いてセッティングしていきます。私達には「納得しないとできない」「こんな事に意味があるか?」「自分は本当に必要なのか?」など、つぶやく心はないのでしょうか？

アンデレはいろんな葛藤の中でも自分の役割に徹していました。「男らしく生きる」とは、自分の在り方を捨ててイエス様に従うことなのです。

《パパ 痛い やめて》

ある宣教師の息子さんは右足がねじまがった状態で生まれてきました。医者は「このままだと大きくなった時に歩けないだろう」と言い、すぐに手術し、まっすぐにしました。手術後、医者は父親にこう言いました。「お子さんはこれからどんどん成長していきます。その時に足首がまた元に戻り、曲がってしまう可能性があります。それで毎日リハビリをしてください」と。このリハビリは、ビンにタオルを巻いて、その上に息子さんの足首を乗せ、曲がらないように上から抑えつける方法で行われます。でも、そのたびに小さな息子は「パパ、痛いよ。やめてよ」と泣き叫びました。その姿を見ると、「こんなに痛がっているのだから止めてしまおう」という誘惑に何度も駆られたそうです。けれども、そのたびに「いや、この子を歩かせてやりたい。しっかり歩けるようにしてやりたい。だから、この痛みに耐えてもらわなければいけない」と思い、リハビリを続けてきたそうです。その息子さんはその後どうなったのでしょうか？20歳になり、テニスの学生チャンピオンに輝いたのです！このお父さんは、自分に与えられていた役割と将来を見通して、真剣に向き合っていたのでした。

■ ノーマン・ビンセット・ピール

エジソン、20世紀最大の世界的伝道者ビリー・グラハム、米国大統領アイゼンハワー、レーガン等、各界著名人に多大な影響を与えた人物ですノーマン・ビンセント・ピール博士は1932年から引退までの50年以上、牧師としての働きをし、力強い説教で人々の心をとらえました。教会の地下室にカウンセリングルームを開き、心悩む多くの人を助けました。熱心なクリスチャンでもあるピール博士が提唱した「自信を持つ10か条」は多くの人に影響を与えました。

最後に

アンデレはどんな状況でも環境や人に流されず自分の役割を全うしました。目の前で求める人がいるならそれに応えようと思いました。私達も神様が選んでくれた、そして神様が造られた、だから決して諦めず、最善を尽くす、そして御手にゆだねます。アンデレはいろんな葛藤の中でも自分の役割に徹していました。「男らしく生きる」とは、自分の在り方を捨ててイエス様に従うことです。私達もアンデレのように自分の在り方を捨ててイエス様に従うものとなるように、共に祈っていきましょう。

(要約者:岡本 英樹)

(2022年10月2日)